

【添付資料2】

Unisys e-@ction Enterprise Server ESシリーズ 付加価値ソフトウェア

【 ess1.3, 2.0 】

■essとは

essは「Enterprise Server Software」の略で、ユニシスが独自に提供する付加価値ソフトウェアでUnisys e-@ction Enterprise Server ESシリーズに標準バンドルされています。ess1.3はWindowsNT上で、ess2.0はWindows2000 (Server / AdvancedServer / DatacenterServer) 上で実行されます

ユニシスはかねてよりメインフレームで培ってきたエンタープライズ・システムの経験から、何がOS(またはシステム)に求められるものなのかを知っています。

現在のWindowsはサーバー管理機能や性能管理機能、または障害発生時の原因追求ツールなどが不十分であり、エンタープライズ・システムにWindowsを適用させるにはこの部分を拡張させることが不可欠です。

essは目的別に3つのカテゴリ(Suite)に分類されます(下表参照)が、各々は独立して稼働するものではなく、相互に連携してシステムの可用性を向上させるものです。

また、essは強力なスクリプト言語を備えており、Visual Basicなどの一般的な言語を利用してカスタマイズすることができます。例えば特定のサービスが停止した際にそれをイベントとして捕らえて管理者に通知する、または異なるサービスを起動させたり、システム稼働状況を保存し、障害原因の追求をサポートしたり、といった様々な要望に応えることができます。

目的	分類(Suite)	構成するツール
パフォーマンスを向上	esPerformance Suite	esProcess.mgr
管理機能を向上	esManagement Suite	esSystem.mgr esPower.mgr esScript.mgr esThreshold.mgr
可用性・保守性を向上	esUptime Suite	esAnalysis.mgr esService.mgr esContrast.mgr esRestart.mgr

また、Unisys e-@ction Enterprise Server ESシリーズはess以外にも以下のソフトウェアを標準バンドルしており、システムの可用性、管理性向上を図っています。

■「ess」以外のバンドルソフトウェア

CA NetworkIT(但し、ES2000シリーズには、Unicenter TNG Frameworkが同梱されます)	オブジェクトモデルと2D/3Dマップの採用により直感的な操作が可能な統合管理プラットフォーム。
Unisys Agent	CA NetworkIT(またはHP OpenView Network Node Manager), esSystem.mgrとの相互運用が可能なSNMPエージェント。主な監視可能な機能は以下のもの。 CPU、メモリ、ストレージなどの稼働状況 BIOS、ファイルシステム、デバイス設定などの状況

■ essの機能概要

esPerformance Suite	
<u>esProcess.mgr</u>	<ul style="list-style-type: none"> 任意のプロセスをグルーピングされた特定のプロセサ (Affinityグループ) に動的に割り当てることができます。これにより複数のプロセスが稼働しているサーバーにおいても特定プロセスのプロセサ資源を確保、パフォーマンスの改善が可能です。また同一プロセサで処理を行うためキャッシュのヒット率向上によるパフォーマンス改善が期待されます。
esManagement Suite	
<u>esSystem.mgr</u>	<ul style="list-style-type: none"> Consolidated Viewは、システム全体の動作環境をWebブラウザで表示することにより、システム管理を容易にいたします。またCA NetworkIT (またはHP OpenView Network Node Manager) と統合して利用することが可能。統一された操作性の中で多くのサーバー資源の管理が可能です。 SNMPブラウザ、DMIエクスプローラを統合することにより、統一管理 (シングルポイントビュー) を実現。 以下のサーバー監視機能を備えます。 <ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードシステム: 稼働状態のリアルタイム表示 マネジメントウィザード: 運用管理ポリシー作成を支援するツール システムヘルスマニタ: 過去24時間のサーバー稼働状態を表示 ESシリーズサーバを構成する物理的な機器とそれらの関係を識別するためのGUIコンポーネントであるSystem Definitionを含んでいます。 <p>(システム名の定義, 診断モードの設定, 設定値をWindowsレジストリに保存します)</p>
<u>esPower.mgr</u>	UPSと連携してサーバーの自動電源オフ/オンのスケジュール等がスクリプト言語を使用して可能となります (LanSafe III サービスモジュール経由)。
<u>esScript.mgr</u>	既存スクリプトのコレクションを参照または検索し、これらのコードをコピーし新規スクリプトを簡単に作成することができます。
esUptime Suite	
<u>esAnalysis.mgr</u>	障害に関連するシステム情報をパッケージファイルとして収集、保存します。Baseパッケージ、SystemFailure、ApplicationFailure、ApplicationNotResponding、ServiceNotResponding等のデータを収集/通知することにより、短時間で障害を分析して問題解決することができます。
<u>esService.mgr</u>	システムを監視して、応答しないシステム サービスを検出しシステム管理者に通知できます。障害の通知により、直ちに復旧作業を開始できるので、システムの停止時間を最小限にすることができます。
<u>esContrast.mgr</u>	任意の時点でのシステムの状態をスナップショット (プロセス、ファイル、ハードウェア、レジストリの4種のスナップショット採取が可能。) を採取し過去の保存したスナップショットと現在とを比較することで、システムの状態の変化を追跡することが可能になります。
<u>esThreshold.mgr</u>	パフォーマンスカウンタの値の上限および下限を定義することができ、指定したカウンタの値がこれらの制限外になった場合にイベントを起動します。
<u>esRestart.mgr</u>	アプリケーションの障害時に、エラーの検知と迅速なリカバリをさまざまな方法で管理者に提供します。